

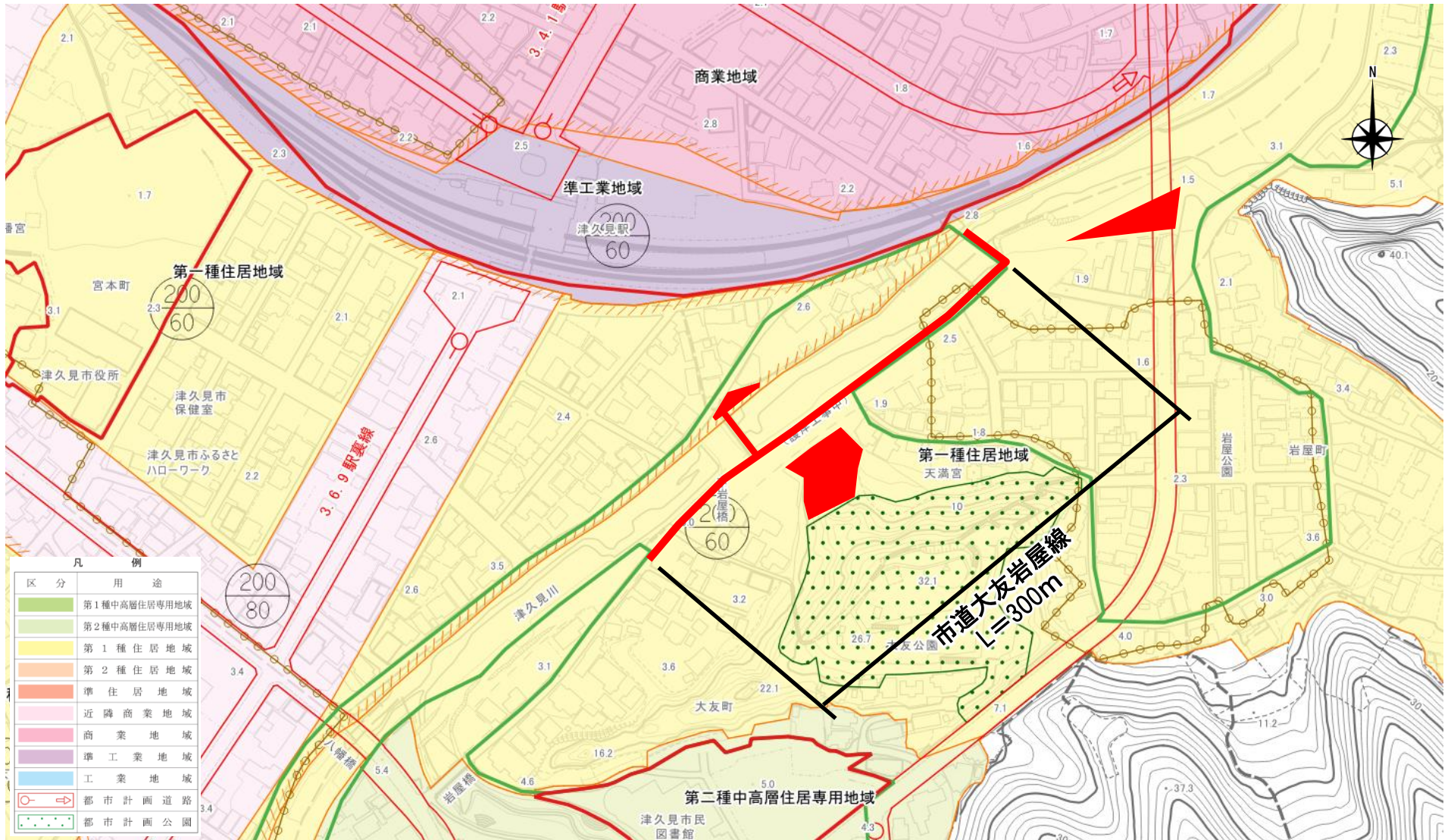
## 事業概要

応募No.	19		
事業主体	津久見市	事業箇所	大分県津久見市大友町～岩屋町
応募者名	津久見市まちづくり課		
ふりがな 事業名称	つくみちくまちなかうおーかぶるすいしんじぎょう 津久見地区まちなかウォークブル推進事業		
事業概要 (400字以内)	<p>本事業は、津久見駅東側に位置する津久見川沿いの市道大友岩屋線を中心に、平成29年の台風災害からの復旧・復興を契機として、歩いて楽しめる魅力的な空間づくりを目指して実施したものである。</p> <p>平成29年9月17日の台風18号による津久見川の氾濫は、市内広範囲にわたる浸水被害をもたらした。</p> <p>その後、津久見川では、再び浸水被害が発生することを防ぐため、大分県を事業主体として河川拡幅を伴う河川激甚災害対策特別緊急事業が行われることとなったが、地域住民の市外転居や地域コミュニティの希薄化が懸念された。</p> <p>こうした状況を踏まえ、津久見市が実施した本事業では、県や地域住民との緊密な連携の下、激特事業との調整や住民要望を考慮した整備計画を策定した。激特事業の用地買収によって生じた残地を活用し、憩いの場となるポケットパークや津久見川の眺望を楽しめる展望広場を整備した。さらに、橋梁(下岩屋橋)の高質化や市道大友岩屋線の照明設置など、歩行者の安全確保と快適性向上に重点的に取り組んだ。</p> <p>その結果、市道大友岩屋線の歩行者・自転車交通量は整備前と比べて1.5倍以上に増加し、本事業によって歩きたくなる魅力的な空間づくりに寄与することができた。</p>		
事業規模	事業延長(km)	約0.3km	
	幅員(m)	約5.0m	
	事業期間(和暦)	令和2年～令和6年	
	事業費(億円)	約1.6億円	
受賞歴	有・無	令和5年度 全建賞(部門関係の部)	
URL	<a href="https://www.city.tsukumi.oita.jp/soshiki/12/15612.html">https://www.city.tsukumi.oita.jp/soshiki/12/15612.html</a>		

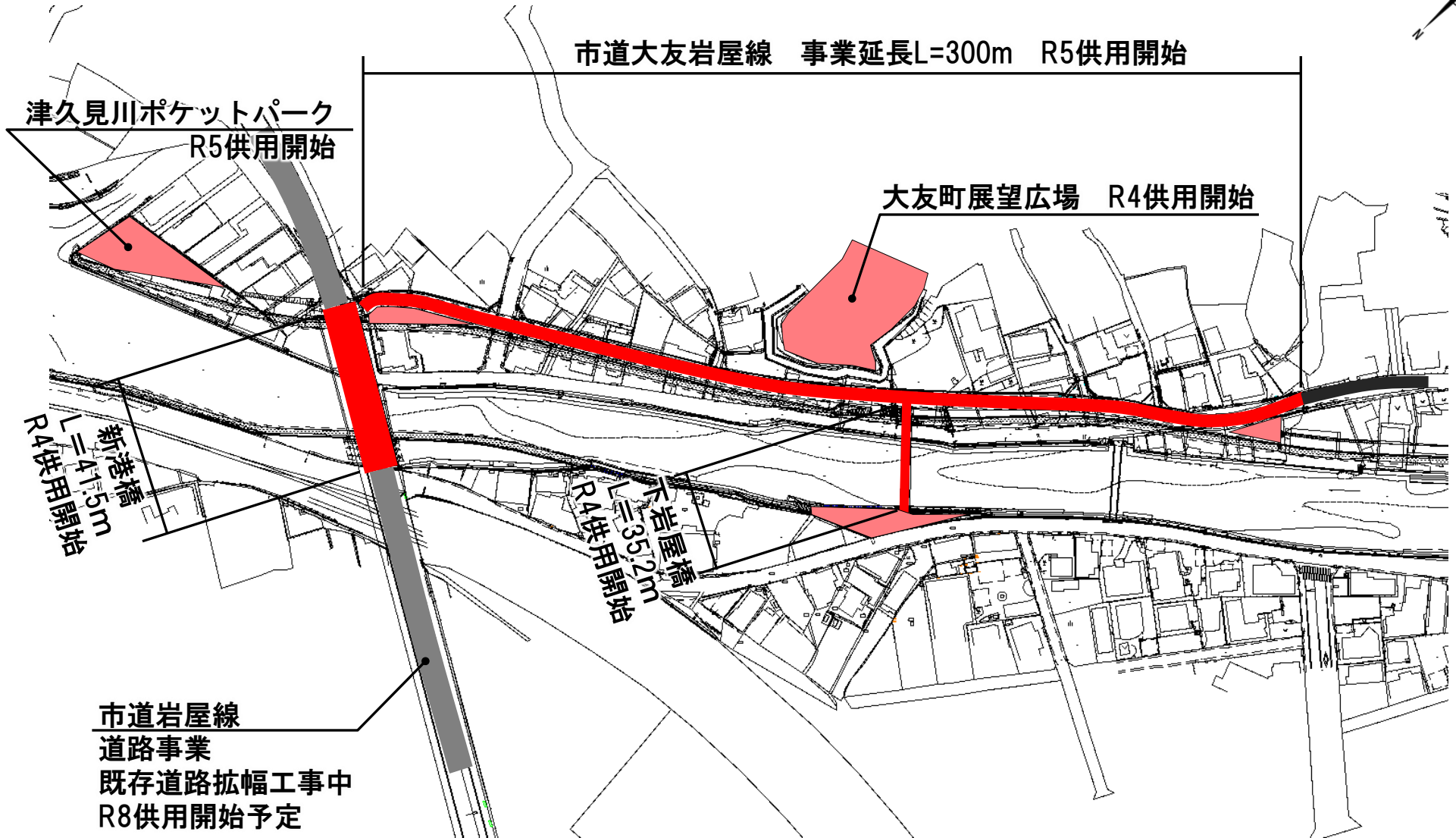
# 事業位置図



都市計画図(用途地域図)

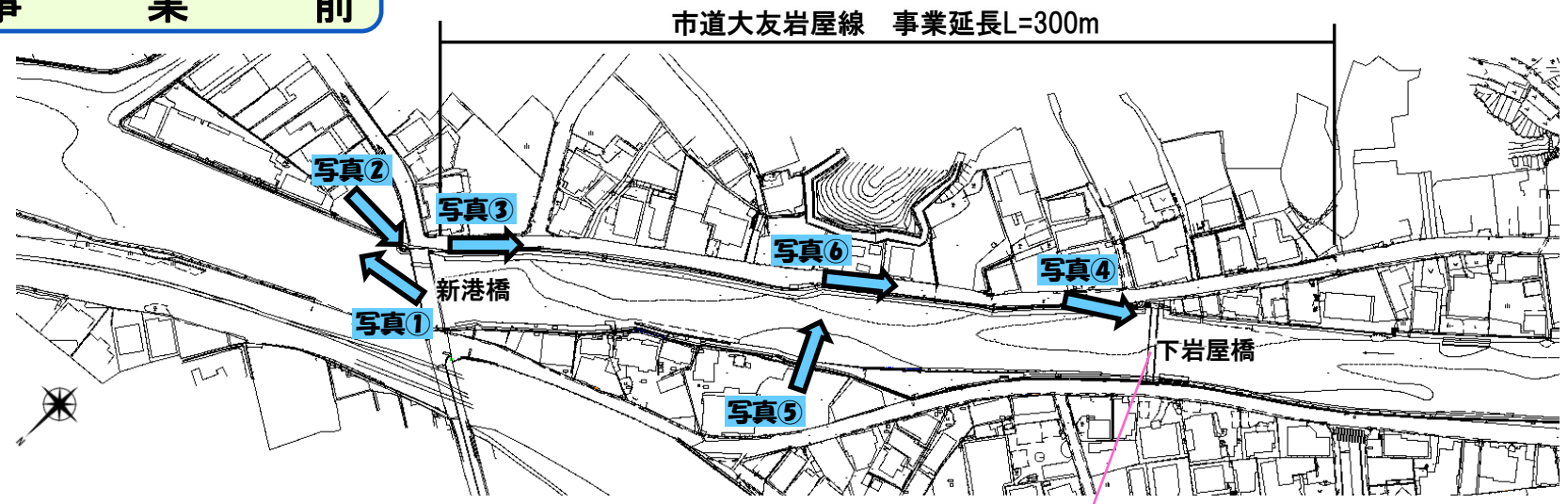


# 路線全体の進捗状況

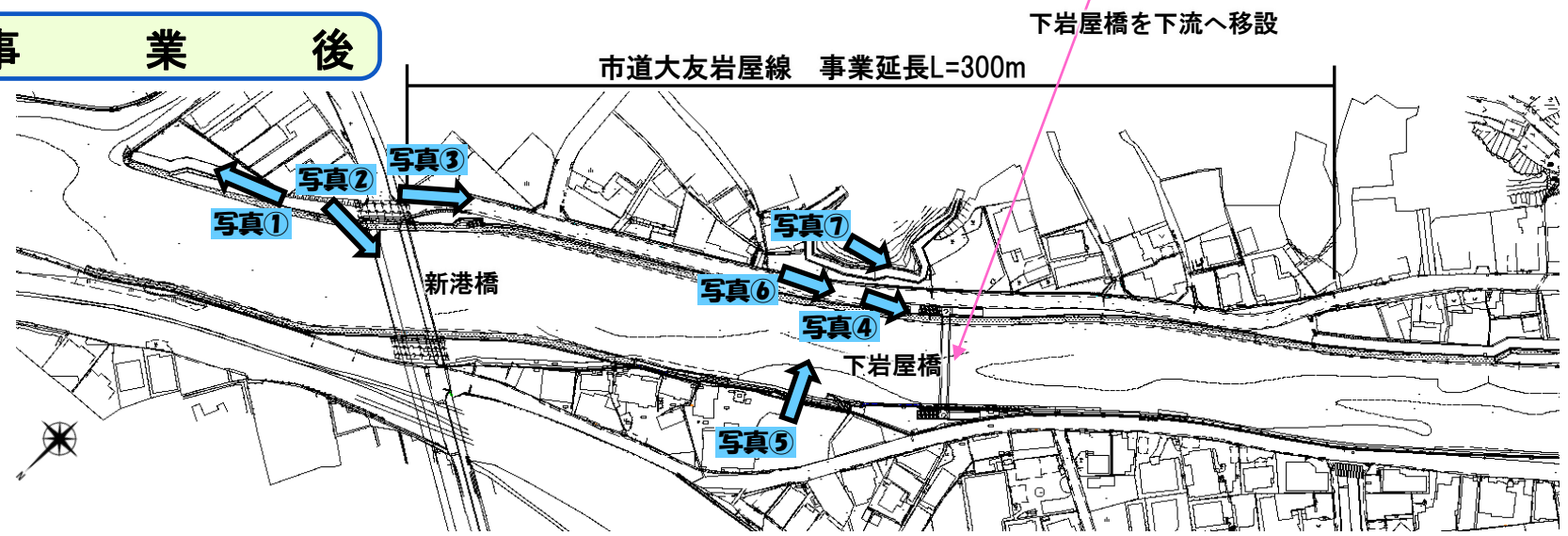


平面図

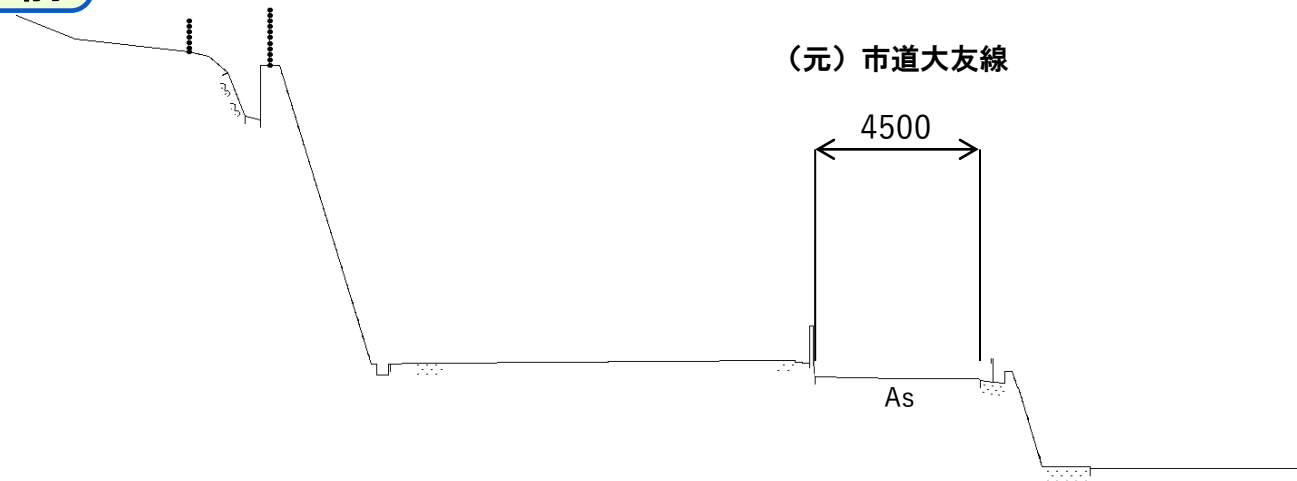
事業前



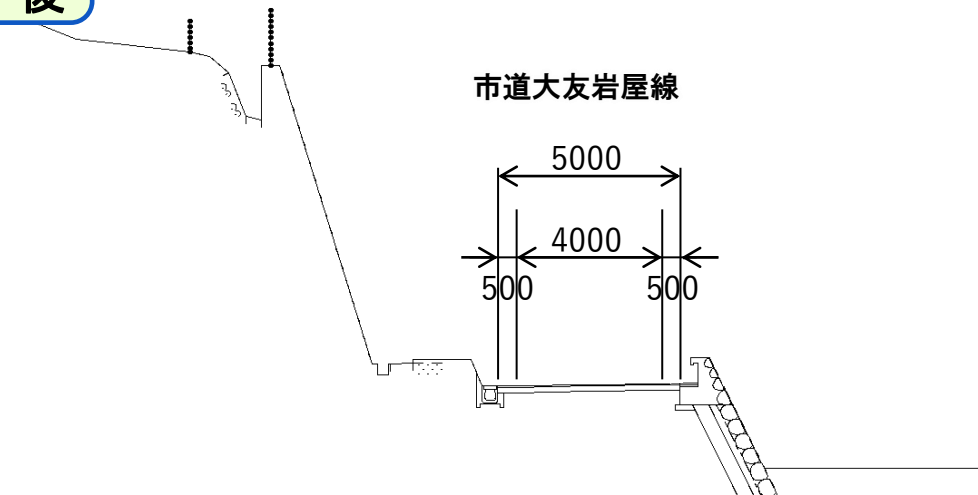
事業後



事業前



事業後



# 事業前写真



# 事業後写真

津久見市：津久見地区ウォークアブル



# 事業前写真



# 事業後写真

津久見市：津久見地区ウォークフル



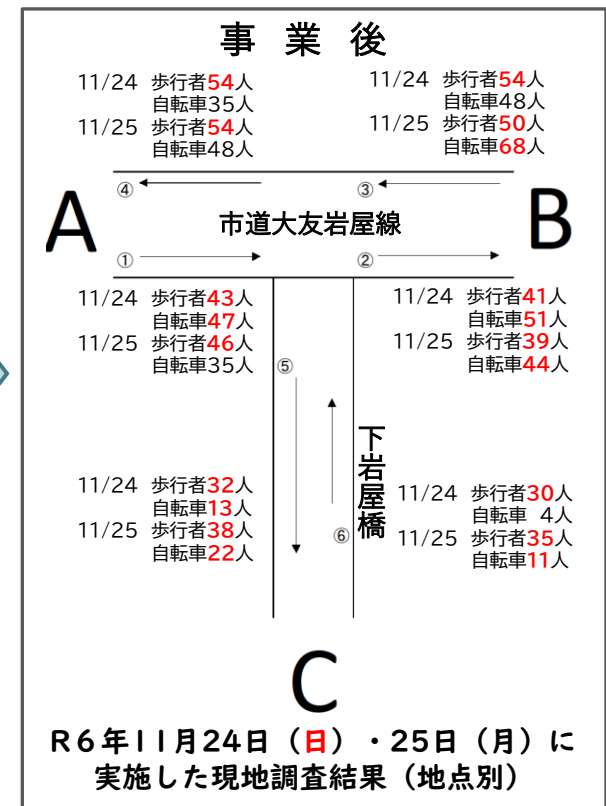
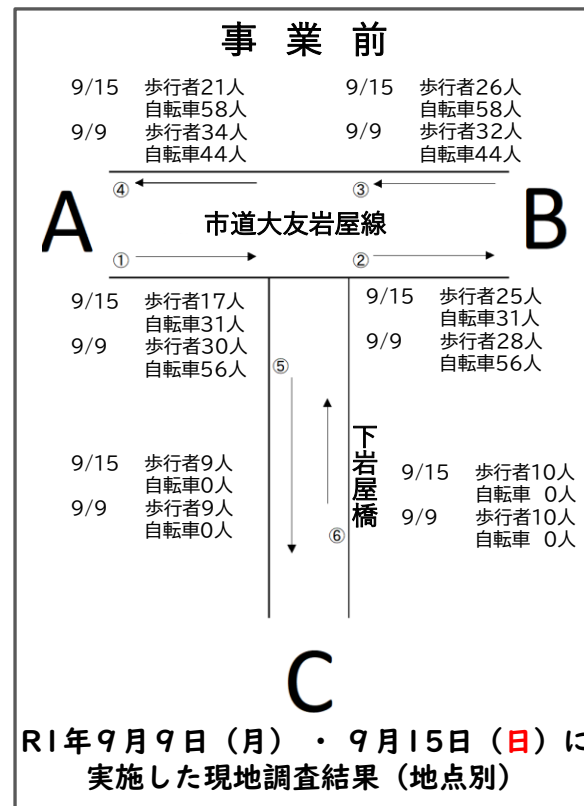
## 事業効果アピール資料

## 市道大友岩屋線の歩行者・自転車交通量が増加

指標	当初現況値(R1)	最終目標値(R6)	実績値(R6)
市道大友岩屋線の歩行者・自転車の通行量(人/日)	148	157	236

下岩屋橋の整備や市道大友岩屋線の整備、津久見川の河川改修、ポケットパークの整備等の様々な事業を総合的に実施したことにより、**質の高い道路・河川空間の形成が実現し、歩行者・自転車の移動が多く、回遊性が高まった。**

また、これらの事業を進めるにあたっては、地域住民・事業者・行政等の多様な関係者が整備前から関わってきたことにより、**地域の身近な場所として愛着が生まれ、利用促進につながったと考えられる。**



※赤字は前回調査(R1)と比較して10人以上利用増

## 事業効果アピール資料

### イベントの開催など、多様な活用の可能性を創出



市道大友岩屋線を通行止めにしてイベントを開催。  
津久見川の拡幅によって沿道沿いの残地に移転したお茶屋さんが川沿いでお茶会を実施。その他キッチンカー出店や休憩場所として道路空間を活用。  
河川護岸のパラペットの天端をテーブル替わりに利用したり、腰かけて井戸端会議をしたりと地域住民に利用されている姿も見られる。



川へのアクセス性が向上したことで、これまで見られなかった川でのアクティビティを実施。  
川遊びを通じて河川空間に対する意識の向上につながった。

## 苦労や工夫等アピール資料

平成29年に発生した台風災害からの復興に向けて、大分県による津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業が進められることとなった。その過程において、河川周辺を含めたまちづくりの検討を行うため、大分県臼杵土木事務所と津久見市の関連部署およびアドバイザーとして福岡大学景観まちづくり研究室の柴田久教授を交えて津久見川プロジェクトチームを立ち上げた。計画検討においては地域住民や津久見川沿いの通行者等を対象にヒアリング調査を行い、どのような河川・道路空間になるとよいか聞き取りを行った。様々な意見を基に津久見川周辺のデザイン案を作成し、地域住民や活動団体等とのワークショップを経て整備計画を作成した。



津久見川プロジェクトチームの協議風景。大分県、津久見市、福岡大学に加え、設計業者も交えて合計8回の協議を重ねた。



地域住民へのヒアリングの様子。地域住民や近隣施設（図書館、幼稚園等）、津久見川沿いの通行人など60名へヒアリングを実施。



ヒアリング結果等を参考に作成した津久見川周辺の整備計画案を基に、地域住民や学校関係者、市民活動団体など22名が参加して意見交換を行い、最終案を取りまとめた。

## 受賞歴・報道資料

## 令和5年度全建賞受賞【異なる部門の事業が連携した取組の部（部門連携の部）】

都市再生整備計画事業・道路改良事業と連携した津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業について  
～災害からの復興に向けた新たなまちづくりへの挑戦～



【受賞機関】 大分県 臼杵土木事務所 建設課  
津久見市 まちづくり課  
津久見市 土木管理課

## 【全建賞審査委員会の評価ポイント】

平成29年台風18号による豪雨災害の再度災害防止策としての引提による河川改修と都市再生、道路改良が連携した取組。官と学のプロジェクトチームを結成し、地域住民へのヒアリングやワークショップを行いながら津久見川の河川改修と広場整備や景観形成などのまちづくり、安全性向上のための道路整備を連携して行った点が評価された。

## 【全建賞とは】

全建賞は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたもの。昭和28年（1953年）の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授賞がなされてきた。

## 【対象事業(又は施策)と審査】

国、都道府県、市町村、機構・公社等の機関において実施され、地方協会長により推薦された事業(受託を含む)又は施策について、部門(道路・河川・都市・住宅・建築・港湾・鉄道)ごとに分かれて、国土交通省の各専門の担当者による予備審査を経て、さらにその後、大学や民間の学識者を中心とした委員による審査委員会（委員長：石田東生 筑波大学名誉教授・特命教授）を行い、のべ2ヶ月間におよぶ慎重な審査を経た選考が行われる。